Try&Challenge トライ＆チャレンジ ～夢をかなえるために～ 「実践」《自由な発想と大胆な行動》

2007.2
No.226

Handsome

ハンサム

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会　会長　福田一哉　　編集責任者：植田寿雄　　制作・編集：メディアコミュニケーション委員会　　印刷所：東京印刷㈱

1月オープン例会開催　生きるということ　竹内流教育論

平成19年1月12日（金）米子コンベンションセンター国際会議室において、役員担当による1月オープン例会が開催された。

はじめに福田会長より「新たな気持ちで年をあけ、残り半年精一杯委員会活動を頑張っていただきたい」と挨拶があった。続いて2名の新入会員、内田隆嗣会員、藤井康之会員にバッジ授与が行われ、胸に真新しいバッジ、会員手帳が贈呈され、志高く熱い意気込みで入会の挨拶があった。

委員長タイムでは、総務委員会の中村委員長より、30歳で先代中村OB会長から会社を引き継ぐことになり、前職とは畑違いの中で会社を運営してゆく想像と現実の違い、自らのスキルアップをはかるための努力。先代が作り上げた会社をより効率を良く、機能的にするための組織変更など、自身の体験・経験についてお話をいただいた。

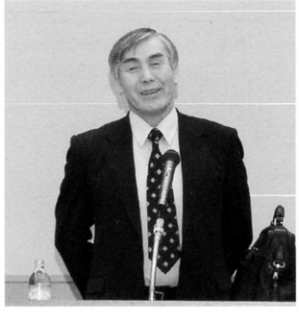
次に、31期司法問題研究委員会・堀江委員長、後藤会員より研究テーマであった裁判員制度について報告があった。

「1年間かけて勉強し作り上げた裁判員制度についての意見書が、法務省主催のシンポジウムの中で、パネリストの刑事局長より『裁判員制度について勉強している鳥取県西部の経済団体はすばらしい』とお褒めの言葉をいただいた。

この喜びは言葉に表せないくらい感動的で、委員会テーマとして取り組んでよかったと思う。たとえ地方からの発信でも、一歩踏み出す決意、周到な準備、そして熱い思いがあれば、相手に伝わり響くと思う。この気持ちを忘れずに今後も中央会活動に生かしていきたい」と報告があった。（詳しくは、ハンサム1月号をご覧ください。）

続いて1月オープン例会は一般の方にも多数ご参加いただき、講師に岡山県立岡山盲学校前教頭竹内昌彦氏（現在同校講師）を招き、「私の歩んだ道」を演題に講演いただいた。

最初に竹内先生より「本日は、みなさんに目が見えないことについて、少しご理解を深めていただけたらと思います」と挨拶があった。



昭和20年中国の天津で生まれた竹内先生は敗戦後、引きあげる船の中で風邪を拗らせ肺炎になり、40℃を超える熱の影響で右目の視力を失われた。左目も0.1という僅かな視力で生活することとなられた。

「目が見えなくなると何も出来なくなって、人生終わりと思ってしまう人が多いようです。38年前ですが、私が結婚するときに妻の父親から、『目が見えないということは、顔も洗えない、歯も磨けない、飯も食えない、服も着られない』と障害に対する偏見を言われました。しかし実際は、多少の不自由はあるものの顔も洗えますし歯も磨けます。ネクタイも自分で締めることができます。目が見えなくなっても、私は十分ではないが、生活に困ることなく、人生が終わってしまうことはありませんでした」そう竹内先生は笑顔で言われ、ご自身の幼少からの辛かった体験談、ご両親に一生懸命育てていただいた感謝の気持ち、教師になってから盲学校の生徒に対する竹内流教育論、いじめられるということに対する悔しさ・辛さ・痛みをお話しいただき、「みなさんが障害者と接するときに一番大切なことは、障害をもった人がそこに慣れるまでゆっくり見守るゆとりをもち、暖かな気持ちをもって接していただくことです」と述べられた。

障害者の立場として私たちにお願い、そして私たちが気をつけなければならないことは、たとえば点字ブロックの上にものを置かない。“お手伝いすることはありますか？”“何かできることはありますか？”と声をかけられること、障害はあっても同じ人間であることの理解をしてほしいと言われ、「もしまわりに障害を持つ家庭があれば、どうか温かく見守ってあげてください。そして彼らのために、みなさんの幸せをどんなささいなことでもいいから、わけてあげてください」と熱くご講演いただいた。

（記事：小川）

委員会BunBun訪問

～ 委員会は会議室だけでやっているのではない… 現場でもやっているのだ!! ～

● 政治行政委員会 ●

平成19年１月10日（水）国際ファミリープラザにおいて、政治行政委員会のオープン委員会が開催された。

開会にあたり、福田会長より「米子は山陰の中でも、冷えている街となっている。それを今回の議題である南北一体化と米子駅の橋上化によって、山陰の中心は鳥取県西部地区であるということを指し示したい」との挨拶があった。

続いて牧田政治行政委員長より、「米子駅を南北一体化させて、中心市街地から米子を元気にしたい想いがあってオープン委員会を開きました」と趣旨説明があった。

第１部は米子市議会の中田利幸議員より、「生臭い話だが、米子駅を橋上化すると40数億の予算がかかる。補助金等もにらみながら、二倍三倍の経済効果をねらっていかなければならない」と、実現可能な夢として熱く語られた。

余談としてであるが、「皆様の先輩の山形議員が亡くなられたが、彼の言葉として、自分達の飯の種は自分達で考えろ」というお言葉をいただいたと締めくくられた。

第２部はフリートークの場になった。

まず、西日本旅客鉄道株式会社の半田真一次長より、橋上化について全国の駅再開発資料を比較対象としながら、「米子よりもっと小さな街でも橋上化はどんどん実現しているのに米子駅が橋上化できないのがおかしい」と言われた。

次に中村昌哲議員より、「米子駅がなくなったらどうなるのか、駅南がどう使えるのかどんどん声を市長まで上げてほしい」と言われた。

私個人としては、横並び的に他が橋上化するから米子もするのか？と若干懐疑的に感じていたが、議員の方や半田次長のお話を伺い、考えを改めると共に中央会を含む青経連が声を大きくし、実現に向けて進んでいく必要があると感じた。（記事：桑本）

● 夢委員会 ●

平成19年1月10日（水）米子ニューアーバンホテルにて第7回夢委員会が開催された。

後藤太良委員長の、今後の委員会活動について「あまり難しく考えず、夢に向かって突き進んで行きたい」との力強い新年の挨拶で委員会が始まった。

今回はゲストに市位清明ＯＢをお招きし、『進化』という演題でお話いただいた。市位ＯＢは夢委員会の入会年月の浅い会員のために県会長就任時の頃の事にふれられ「会員同士お互いに葛藤したりもしたが、そういった部分もおもしろかった。また、多くの人達と出会い鳥取県中に友達ができ付き合いの幅が広がった。これが中央会の良いところ」と話された。現在、市位ＯＢは国内だけでなく海外でもお仕事をされているとのこと。仕事先の中国での3人の米子出身者との偶然の出会いについても話され、あらためて米子の人はバイタリティーにあふれていると思ったと話された。お話の中で何度も『出会い』という言葉が出てくるのだが、人が『進化』するうえで『出会い』はとても重要な要素であるとあらためて感じた。

その後企業の『進化』についてもふれられ、『進化』＝『変化』であると言われた。変化に素早く対応できる企業だけが生き残っていける。そして自らも変化し続けるために、誰よりも先にアイディアを生み出し、いち早く行動に移すことの繰り返しが重要と語られた。「失敗を恐れず、９敗しても１勝を勝ち取る気持ちも大切だ」との言葉が印象的だった。

今回のハンサムだけでは全てをお伝えすることができないが、大変貴重なお話をたくさんいただいた。「みんなといるのが好き」と市位ＯＢが言われていたように、終始和やかなムードで委員会は終了した。その後、夢委員会の第２部懇親会（真の委員会？）に市位ＯＢも参加されて、スタートしたのであった。（記事：高野）

鳥取県中小企業青年中央会 18年度委員長交流会開催

県役員三役、東部・中部・西部地区委員長、交流会責任者の計23名により、1月27日(土)に皆生観光センターにて委員長交流会が行われた。(懇親会は海潮園) まず釜田県会長が挨拶をされ、「今回で交流会も10回目を迎えているが、3地区の委員長が一堂に集まる機会は無いのでこの会が重要であること、また各地区の良い点・特色等を学び、今後に生かして欲しい」と述べられた。次に各委員長が自己紹介を兼ねて3分間スピーチを行い、各々の職場の様子や現在の委員会活動について熱く語られた。その後グループ討議が行われた。議題は①「例会のあり方と魅力ある例会づくり」と②「地域貢献に関する活動」であった。①は各地区とも例会の出席率が低いことが共通問題で(西部7割、東・中部は6割)、今後の対策としては魅力ある講師の招聘なども必要であるが、例会担当の委員長の思いや例会の意義・魅力を如何に各会員に伝えるか、も非常に重要であるとの認識で一致した。②の議題については他地区から西部は「米子駅橋上化による南北一体化のまちづくり」を市に要望書を提出するなど、行政に対して積極的に働き掛けを行っており、参考にしたいとの言葉があった。また東・中・西部の個々の問題とせず、中央会全体の課題として取り組み、一体となった地域貢献活動をしていきたいとの意見等が出された。最後に井上県副会長より、「地区間の相互支援を活発にし、次世代の中央会の促進・発展に努めて欲しい」との総評が述べられ終了。最後に釜田県会長の感想として、「全員非常に頼もしい、個々の活動は違うが、最終目指すところは一緒(地域貢献など)であり、共感する面が多く、大変有意義であった」とのことであった。（記事：村上）

PLAYBACK 中央会 -あの頃僕は若かった！-

第21期卒会
吹野 正和OB

Q. 中央会で特に印象深い思い出をお聞かせ下さい。
A. 平成4年・5年(18、19期)と2年連続で副会長をしたことです。渡辺会長・高田会長の二代に仕えました。それまでは、どちらかと言えば不良会員だったかな？最初の5年間くらい会費要員でした。（笑）年齢的にも卒会間近だったこともあり、やっぱり副会長として特に中央会活動には力が入りましたね。それから、何といっても中央会20周年の周年イベントは思い出深いですね！

Q. 中央会は一言で言えばどのような会ですか？
A. 勉強の場ですね！

Q. 中央会の活動で、会社経営に反映されていることがあればお聞かせ下さい。
A. 異業種交流。中央会には多くの業種の方が所属されているので、その活動を通して様々な立場の意見に触れるには絶好の機会ですし、中央会の一番のいいところです。その中で、丸ごと全部ではないですが、よい意見があれば、その都度、経営に取り入れたり、参考にしたりしていました。卒会してからもその姿勢は変っていませんね。今でも常に勉強をさせて貰っています。その時その時に会う異業種の方の意見は大変参考になりますよ。いい意見があれば、その都度、積極的に取り入れるようにしています。

Q. 現役会員に一言お願いします。
A. とにかく参加すること。やっぱり中央会の活動に積極的に参加することは大切ですね！委員会・例会・ボランティア、折角中央会に入っているのだから参加することが一番大切だと思います。参加しさえすれば、得ることはあっても、失うことは余り無いじゃないですか？例会や委員会に出来る限り積極的に参加し、自分のためになること、或いは自分の会社のためになることを一つでいいから必ず吸収し、持って帰って欲しいですね。

吹野OBには急な取材依頼だったのですが、大変お忙しい中お時間をいただき、ありがとうございました。　（記事：内田）

Try & Challenge ～夢をかなえるために～

グリーフケアについて
桶村 清子監事

私は葬儀業界で仕事をしています。ここ近年「グリーフケア」「グリーフサポート」を事業に取り入れる活動しています。

グリーフとは、かけがえのない人を亡くした際に起こる悲嘆や悲哀などであり、自分自身でグリーフワーク（悲しみに抵抗・絶望・離脱を繰り返し新しい自己の確立をしていく過程）を行うと言われています。しかし、亡くなられた人との関係、死別のタイプ、死因や状況、残される人の特性などにより自分自身でグリーフワークを拒否する心理状態になってしまうことがあります。これは知らず知らずにそうなってしまうということですから話を聞くことや話すこと、体を動かすことでまたグリーフプロセスに戻ることもあります。

専門家ではないですが、勉強を重ねながら心理療法士が受けるコミュニケーションレッスンと同様のレッスンを受け、そういう遺族の方々と一緒に分かち合いの会を開いたりしています。この分かち合いの会を始めて2年が過ぎましたが、参加された方々の表情が少しずつ変化していったこと、今ではとても元気になった姿を見ることは感慨深いものがあります。

死の哲学者A.デーケン氏は『心の傷が癒えるとは単に健康な状態に復元することでなく、人格的に大きな成長を遂げることを意味する』と言っています。

本当は遺族の家族・友人など親しい方々がサポートするのがいいと思います。どういうふうにサポートしたらいいのかということをお知らせしていくような活動を増やしていきたいと思う今日この頃であります。

厄落としの会

平成19年1月14日（日）勝田神社において「厄落としの会」が行われた。

正午から行われた厄落としの神事には、対象会員の内20名（お礼参り2名、後厄8名、前厄10名）が集まりご祈祷していただいた。参加者の生年月日、氏名が読み上げられたのち、お礼参りの畠山委員長、後厄の水副会長、前厄の石川会員の3名が代表として玉串奉納を行ない無事祈祷を終え、神社前で記念写真を撮り解散となった。

引き続き13名の会員が海潮園に移動し懇親会が開催された。石川担当幹事の挨拶の後、お礼参りの堀江会員が「厄落とし会で一番の楽しみの懇親会だが今年で終わりです。来年参加できないのは残念だが今日はみんなで大いに飲んで厄を落しましょう！」の乾杯の発声のもとで始まり、中島副会長から今までの厄落とし会でのこぼれ話を伺った。ほろ酔い気分になった頃、厄落とし会恒例？のニョッキの掛け声が始まった。ニョッキニョッキの声は延々2時間余り続いたが、掛け声とともに厄を追い払えたに違いない。

この1年、皆様のご健康とご多幸をお祈りします。　（記事：石川）

皆様、「ウィンズ」って御存知ですか？

ウィンズとは競馬場へ行って馬券を購入できないファンへの便宜を図るために設置された施設です。なんとそのウィンズが、米子市の北西の一番端の「崎津工業団地」の一角に進出が予定された。

その計画案が公表されたのは、今から約２ヶ月前の３月始、それからというもの、まわり一面ネギ畑の平和な我が町は、この話題でテンヤワンヤの大騒ぎ、朝のゴミ置場、昼の畑、夕方の立ちキュウでの話題はすべてこの問題に花が咲いた。「ギャンブル場が出来ると子どもの為に悪い」「交通渋滞がおこる」とか悪い話ばかり出てくる。このままではいけない、一度地元の人達で、現実のウィンズを視察に行こうと言うことで、４月11日、12日に福岡県北九州八幡のウィンズ八幡まで地元自治会の代表総勢70名で行ってきました。私の今までの経験から視察旅行で観光バスにのるとすぐにビールだ酒だと飲むことが当然だと思っていましたが、今回はその予想は見事に覆され、米子市の担当者の説明、参加者の熱心な意見の発表等で、大変真面目な旅行でした。

今回のウィンズの視察で感じた事は、警備・清掃面が行きとどき、未青年者や不信な人の姿は無く、施設内・施設周辺共、とても清潔感が感じられた。それ以上に雇用関係で200～250名の雇用が必要となり、地元に入る環境整備費・固定資産税等の財政への影響が考えられ、地元の人々が心配しておられる問題は、ウィンズ八幡を見る限りでは私個人的には無く、経済的波及効果の方が大きいのでは？と思うが、今後いろいろ論議をよびそうだ。

最後に話は変わりますが、私は未だかって、馬券を購入したことがありません。会員の皆様の中で競馬に詳しい方、購入時のマークシートの方法、勝つ馬の見分け方等のご指導の方よろしくお願いします。

聞いてごしない Part 10

（無駄使いするな！）

私は怒っている。新聞によると、ある国の自治体では、年度末のたった１日で８億７千万円もの事務用品を購入していたとのこと。その支出額が正当か正当でないかは不明だが、そこには、「年度内に予算を消化しなければならない」というおよそ理解しがたい官公庁の理屈があり、**「節約」**するという姿勢など微塵も感じられない。

この国は、「国民の血税を湯水の如く使いまくり、そのうえ孫子の代まで分も借金を重ねる放蕩な政治家、官僚のいる国」として本に紹介されている。

利子年間１兆３千億円という旧国鉄の28兆円の負債、「国民の預金を守るため」というまやかしの住専処理に6,850億円、償還財源のない241兆円の国債発行残高、農道を滑走路化するための「ウルグアイラウンド対策費」６兆円、さらに農業の足腰をそぐためにバラまかれる年間２兆２千億円の補助金・助成金、計画策定後、凍結、解除が繰り返され、政治家の票集めに抜かれた伝家の宝刀、整備新幹線未着工区間工事費１兆２千億円、自主財源を無視した地方自治体の106兆円の借金等々…。ぜ～んぶ国民の税金で賄われるそうだ。

さらに悪いことに、この国の官僚、政治家は許認可権を濫用し、私腹も肥やすという。ただこの国にも救いはある。地方公共団体レベルであるが、県市民オンブズマンという「ウルトラマンの婿養子」達が、官官接待、食糧費、カラ出張、裏金作りといった公金の不正出資を暴きつつあるらしい。「官が民の上にふんぞり返って金をバラまいたり、使い込んだり」という、長い歴史の中で培われた悪しき構造的体質を変えていくことは、気が遠くなるほど根気のいる作業である。この国の良識ある国民にエールを送りたい。

「遠い昔、我が国日本もそうだったな」と、幼き日に学校で習ったことを思い出しつつ、私は今や世界最強のプロ野球チームとなった常勝「阪神タイガース」の試合を観ている。そういえばこのチームもその昔、天文学的な借金をしていたという…

（文・てなぐさみ　2020年）

コピーをして名簿にお貼り下さい

5月例会案内

と　き　５月15日（木）　PM 6:30～
ところ　ホテルサンルート米子
内　容　○夢みなと博覧会衛星中継進行状況発表
　　○臨時総会
担　当　地域ビジョン委員会
※出席の有無を返信ハガキにてご回示下さい。

5月役員会報告

５月定例役員会が５月１日（木）、米子食品会館に於いて開催された。
当日の主な議題は、次の通りです。
（１）５月例会（臨時総会）、６月例会開催の件
（２）新入会員承認の件
（３）収支見込みの件
（４）トライアスロンの件
（５）委員会報告作成の件
（６）その他
※尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

編集後記

ハンサムの今月号にも、例の忘年会の目玉商品冬のリゾートの記事が書かれていないとおもわれている会員の皆様大変申し訳ありません。今年の冬は中途半端の気候のため、なかなかなだれ注意報が消えなく、なだれの心配がなくなったら、とたんに雪もなくなってしまいました。ハンサムには春のリゾートと言う事で大山登山の記事を書かしてもらいますので、よろしくお願いします。